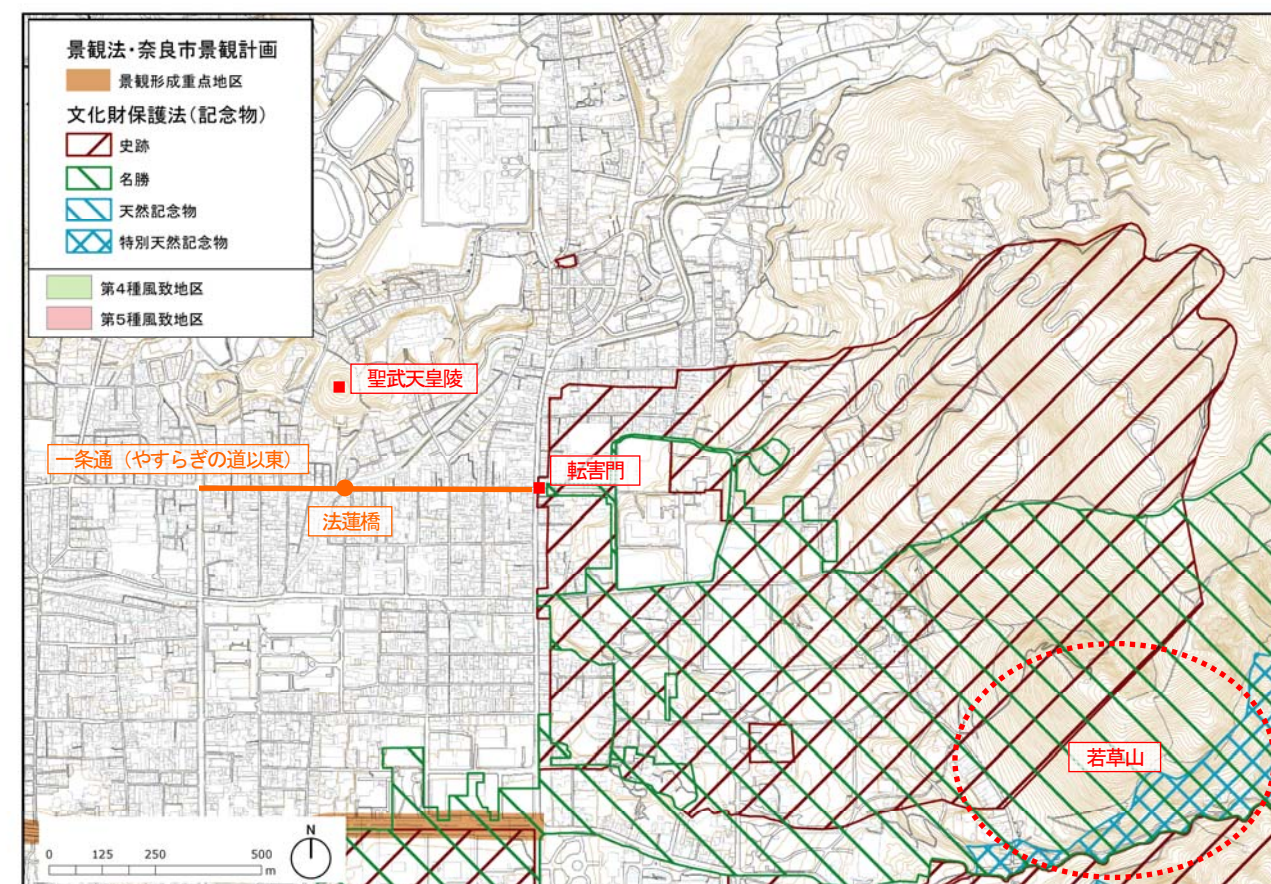
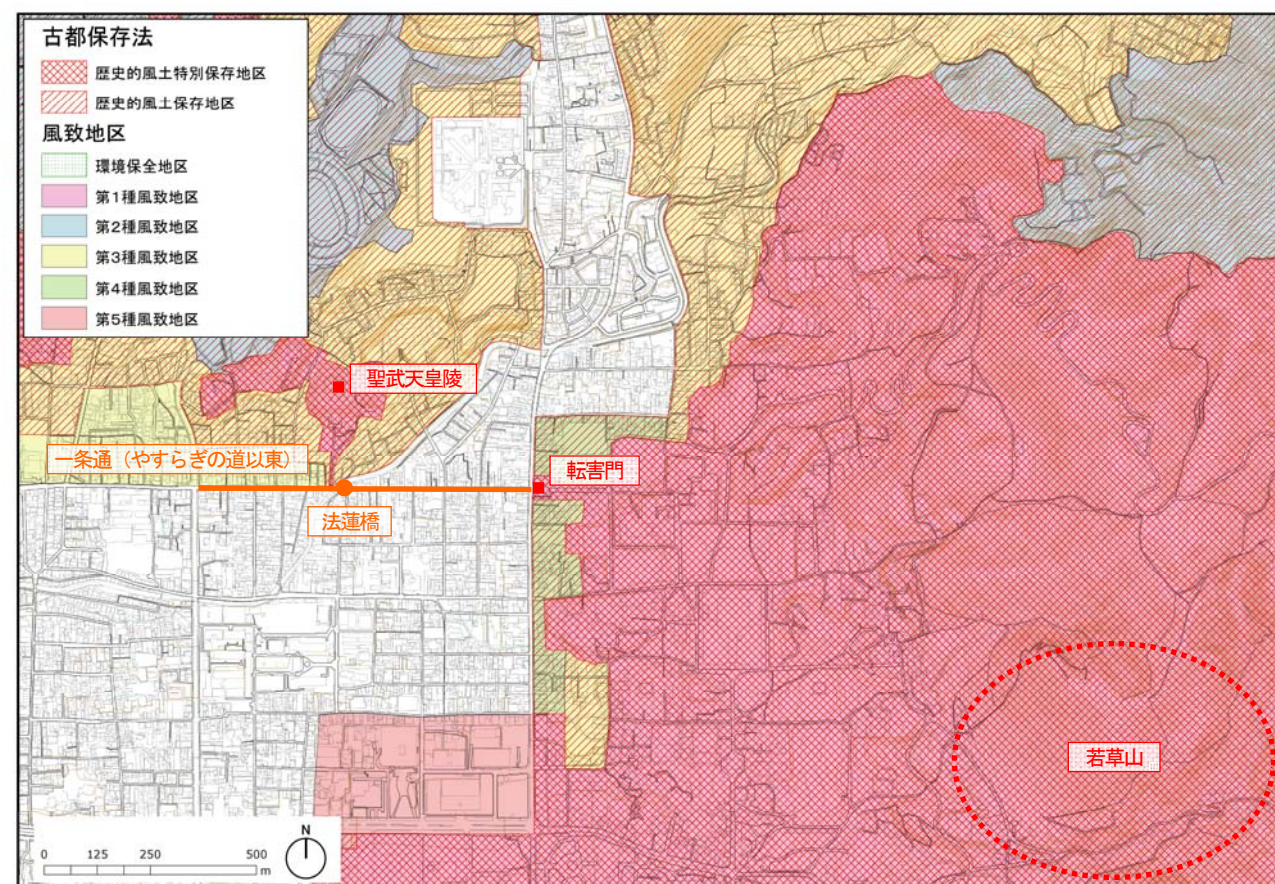
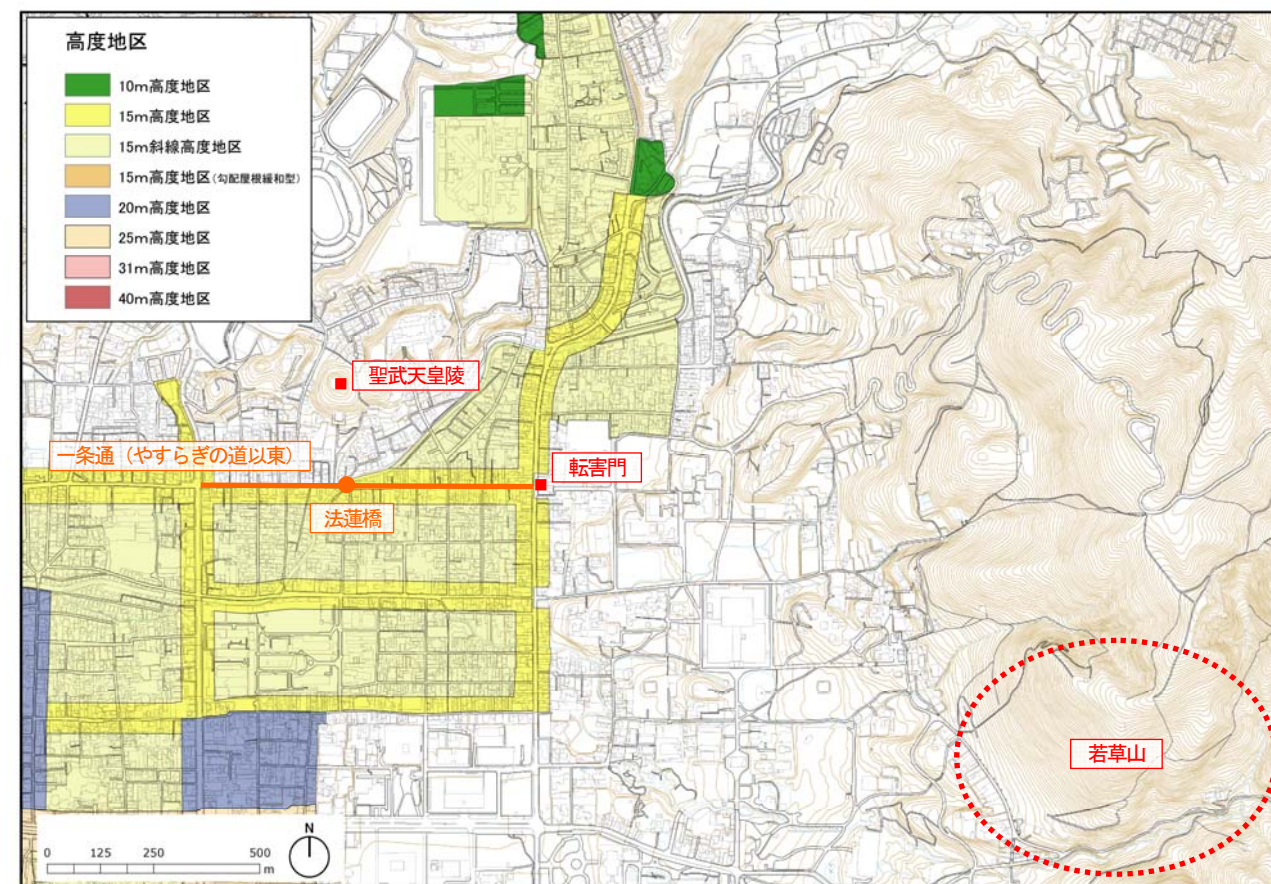
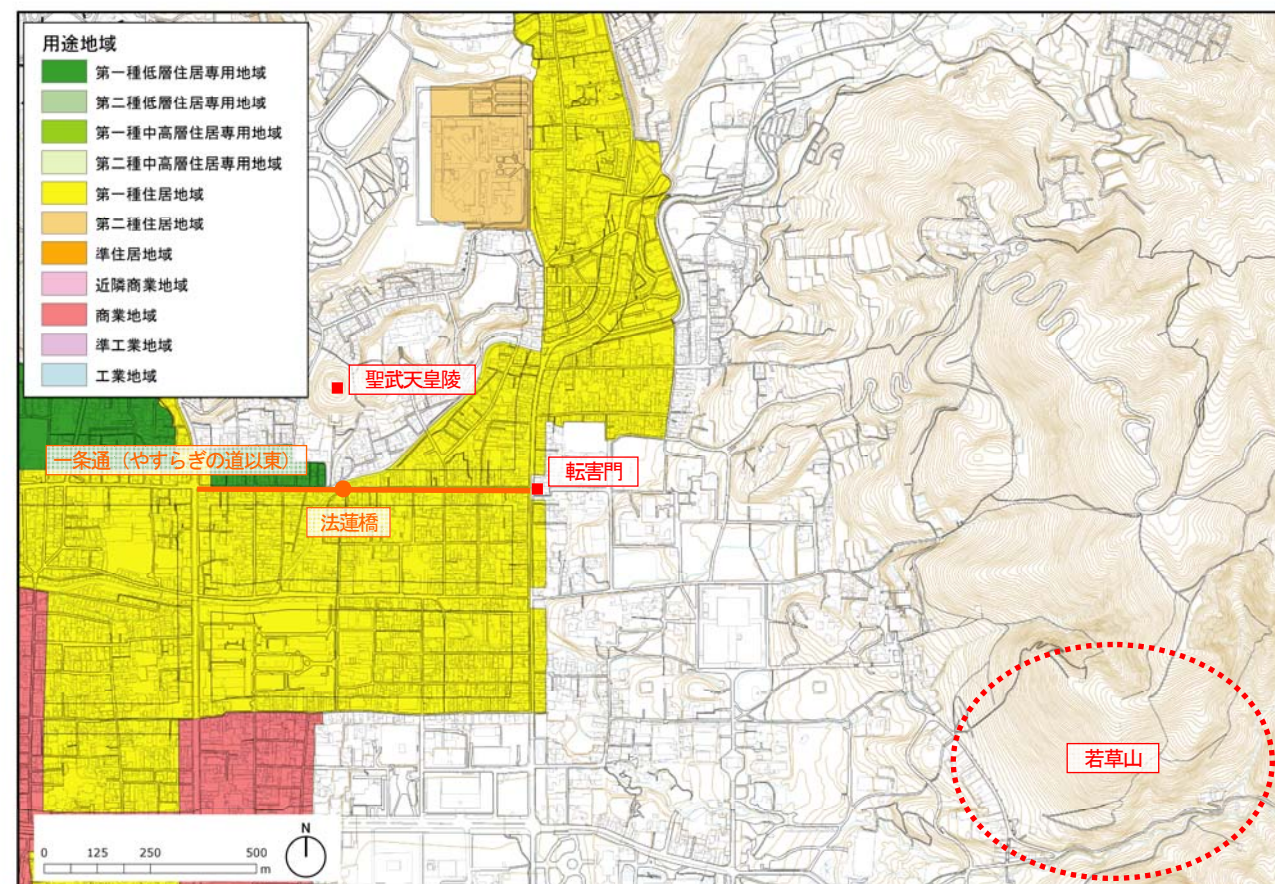
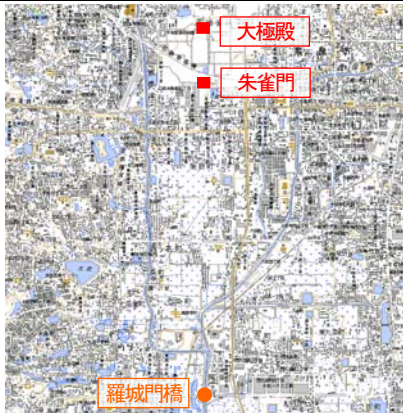


No. 21 一条通（やすらぎの道以東）、法蓮橋から転害門、聖武天皇陵、若草山等への眺望			類	型	Ⅲ
 			視	点	場
			視	対	象
			眺 望 空 間	近	景
				中	景
				遠	景
目に見える景観の特性		一条通りの沿道に点在して残る町家等がその他の建築物と一体となって軸線をつくりだし、アイストップとなる転害門が象徴的に映る。通りの南東方向には、沿道の建築物の隙間や上部に若草山を垣間見ることができる。 法蓮橋では、一条通～佐保川～聖武天皇陵～山並み等への 360 度の広がりのある眺望景観が形成されている。	守 る た め の 視 点		
心で感じる 景観の特性	歴史的背景	一条通 かつての平城京の一条南大路であり、平城京の北東端にあたる。 法蓮橋 高欄は花崗岩を削ってつくられたもので、親柱には、昭和 6 年に尾田組により竣工したことが記されている。 転害門 保路の東端終点にあたる。治承 4 年（1180）の平重衡の兵火、永禄 10 年（1567）の三好・松永の戦いの 2 回の戦火にも焼け残った建物のひとつで、天平の東大寺の伽藍建築の遺構である。三間一戸八脚門の形式をもつ堂々とした門で、鎌倉時代の修理で改変されているが、基本的には奈良時代の建物である。国宝に指定されている。 聖武天皇陵 法蓮北畑古墳とも呼ばれ、眉間寺という古代創立の寺院があったとされている。多聞城の西南隅にある光明皇后陵と並んである。松永久秀による多聞城の築城等により付近一帯は大きく破壊されたといわれる。頂上の径 7m・高さ 2mの円丘は、明治 12 年 2 月の治定以降に造成されたとされる。 若草山 山容が菅笠の形をし、3 つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。元々は樹木の茂った山であったらしく（東大寺山堺四至図）、この山をめぐる東大寺と興福寺の寺領争いの解決のために山上の樹木を焼き払って境界を明確にしたことから禿山になったと言われる。山頂には前方後円墳鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。			
	民俗文化・生活文化や 説話・伝承	一条通 東大寺の転害門から法華寺にいたる一条通は佐保路と呼ばれる。佐保路には、貴族たちが豪邸をつらね、大伴坂上郎女、大伴家持、笠郎女、藤原麻呂など、万葉集に鮮やかな感性を記した歌人たちも行き来した道である。また、日本 3 大仇討ちのひとつ「鍵屋の辻の仇討ち」の舞台のひとつとしても知られる。 法蓮橋 江戸時代、多聞屋敷（現在の多門町）の与力・同心へ年間千石の米が運ばれたため、千石橋と呼ばれていたという。 転害門 名前の由来は、「大仏殿の西北にあり吉祥の位置で害を転ずる意から」、「手向山八幡が宇佐から東大寺境内に勧請された時、この門から入られる時に殺生を禁じられたため」、「手向山八幡宮のお祭の時、この門から乱声が奉せられたため」、「大仏開眼の導師を務めるために婆羅門僧正が東大寺に来られる時、この門で行基菩薩が待ち受け、手招きされた様子が手で物を搔く（手搔→転害）ように見えたため」とも言われる。元は「碾磑」という字が使われ近くに美しい石臼があったとされる。平城京の佐保路に面したことから「佐保路門」とも、源頼朝を暗殺しようとして平景清がひそんだとの伝説から「景清門」ともいわれる。小野小町が年老いて零落し、乞食のようになって放浪していた時、この門でも寝泊まりしていたことがあるとも伝えられている。 若草山 毎年 1 月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には諸説があるが、かつて、東大寺と興福寺とがしばしば寺領境界争いをしていたため、宝暦 10 年（1760）に奈良奉行所が仲裁に入り問題を解決し、以後、両者の緩衝地帯として毎年山を焼くようになったともいわれている。			
	眺望景観の 構成要素の 関 係	聖武天皇陵と一条通、転害門（東大寺） 毎年 5 月 3 日に山陵祭が執り行われる。祭りでは、東大寺一山の僧侶が大仏殿を出発し、一列となり大仏池の畔を経て転害門をくぐり、一条通を西に進み、聖武天皇陵へ向かう。御陵の遥拝所で読経、献茶などの法要の後、隣の光明皇后陵を参拝。その後再び大仏殿に戻り、裏千家による献茶式が行われ、終了後は抹茶がふるまわれる。			
	情報としての 景観の特性	名所案内記 絵 図 等 転害門 古くは転害門を特記したものは少ないが、明治以降、「奈良名勝全図」（明治 31 年（1898））、「奈良名勝旅客便覧」（明治 40 年（1907））などには掲載されている。 若草山 「奈良名所東山一覽之図」（幕末頃）、「いんばんや絵図」（明治 3～15 年（1870～1882））、「奈良名所細見図」（明治 24 年（1891））など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。 文学・芸術 作 品 若草山 春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの鳴く」（中務卿親王「夫木抄」） 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見るかな」（「宇津保物語」） インベントリー 若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園 100 選」「日本の都市公園 100 選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。			
			整 える た め の 視 点		
			活 か す た め の 視 点		

法的 位置 付け



No. 33		羅城門橋から大極殿、朱雀門への眺望		類	型	Ⅱ		
						視 点 場	羅城門橋	
						視 対 象		大極殿／朱雀門
						眺 望 空 間	近 景	佐保川／農地
							中 景	市街地
				遠 景	大極殿／朱雀門／北部山並み			
目に見える景観の特性				佐保川や近景域の農地等の広がり先の、うっすらと朱雀門、大極殿を望むことができる。 眺望空間には大規模な建築物等が多くみられ、それらに埋もれているため、よく探さなければ見つからない。				
心で感じる 景観の特性	歴史的背景	羅城門 平城京の中央を南北に通る朱雀大路（道幅約75m）の南端にあり、都の玄関口となった京の正門である。昭和44～45年（1969～1970）にかけて発掘調査が行われた。また、昭和47年（1972）には、門の基壇の西端部が検出され、門の本体は佐保川の西側堤防の真下に位置することが判明した。門の規模は桁行5間（約25m）、梁間2間（約10m）で、平城宮の正門である朱雀門とほぼ同じ重層入母屋造り瓦葺の建物とされてきたが、最近では門の正面が7間（約35m）の京内最大の門であったという説も出されている。 大極殿 天平12年（740）恭仁京に遷都し、難波京、紫香楽宮を経て、天平17年（745）に平城京に戻った際、別の場所に第二次大極殿が建てられた。現在、第一次大極殿が復元されている。 朱雀門 平城宮には12の門が設けられており、朱雀門は最も重要な門であった。朱雀門は平成10年（1998）に復元され、大極殿から眺めると、朱雀門の向こうに羅城門へと伸びた朱雀大路を感じることができる。						
	民俗文化・生活文化や説話・伝承	羅城門 「続日本紀」によれば、門では雨乞いが行われ、また、唐や新羅の施設を歓迎するなど、宗教的な場、外交儀礼の場でもあったことがわかる。最近の発掘調査の結果、羅城門は海外からの使者を迎える正門であるため、当時の首都の威厳を示すため、門の近くは瓦ぶきの立派な築地塀にし、離れた場所は張りぼてのような板塀にした可能性もあるとされている。郡山城天守閣の石垣東北隅には、羅城門礎石を伝承する石が3個ある。						
	眺望景観の構成要素の関係	羅城門と朱雀門・大極殿 平城宮の南門である朱雀門は、「天子南面す」というように、大極殿から平城京を睥睨（へいぎ）する最も重要な門である。羅城門橋からは、朱雀門・大極殿を一直線に眺めることができ、かつての朱雀大路を想起できるとともに、平城京の大きさを体感できる。 朱雀門・大極殿と北部丘陵の山並み 北側の山並みに抱かれた地に建設された平城京の構造を思い浮かべることができる。						
情報としての 景観の特性	名所案内記絵図等	平城宮跡（大極殿・朱雀門） 明治12年（1879）の「奈良名所独案内全」で紹介されている。						
	文学・芸術作品	羅城門～朱雀門・大極殿（朱雀大路） 羅城門から朱雀門・大極殿への直線は、かつての朱雀大路を想起できる。その朱雀大路について「万葉集」では、以下の歌が歌われている。都の大路には柳が街路樹として植えられていたことがわかる。 「春の日に萌れる柳を取り持ちて見れば都の大路し思ほゆ」（万葉集19-4142、大伴家持） 平城宮跡・平城京 万葉集にも多く詠まれている。 「あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今盛りなり」（万葉集3-328、小野老） 「たち変り古き都となりぬれば道の芝草長く生ひにけり」（万葉集6-1048、田辺福麻呂歌集）						
	インベントリー	平城宮跡（大極殿・朱雀門） 世界遺産として多くの人々に知られている。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、平城宮跡はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。						
				守 る た め の 視 点		・朱雀門及び大極殿の位置する平城宮跡は、史跡として保護されており、視対象については、新たな保全施策は求められない。 ・羅城門橋と朱雀門・大極殿の間に建築物等が建設されると、朱雀門及び大極殿が見えなくなってしまうおそれがある。土地利用の制限などにより、かつての朱雀大路が感じられる空間の保全が求められる。 ・背景の北部丘陵の山並みと朱雀門・大極殿を一体として望むことも重要であり、山並みを阻害しない高さの建築物とすることが求められる。 ・朱雀門及び大極殿は探さなければ分からない程度であるため、周囲の建築物等の色彩や形態意匠に配慮し、朱雀門及び大極殿が、周囲の山並み等の自然のなかに浮き立ってみえるよう誘導していくことが求められる。 （施策の方向性）A-1, A-2, A-3, B-1		
				整 え る た め の 視 点		・周囲の自然環境と調和しない規模、形態意匠、色彩の工場や商業施設、電線類等や鉄塔などが眺望景観のなかに映りこみ、眺望景観の質を低下させている。可能な限り修景していくことが求められる。 （施策の方向性）F-1, F-2, F-3, H-1		
				活 か す た め の 視 点		・視点場付近には、駐車スペースや案内板は設置されているものの、十分に情報化されていないため、アクセスが困難である。より積極的な情報発信が求められる。 ・奈良市内の観光資源の集積する区域から離れており、連携が困難である。大和郡山市（郡山城跡や稗田環濠集落など）との連携の検討が求められる。 （施策の方向性）J-1, L-1		

